

キーワードを前文に 広報に必要な基本を学ぶ



左：岩崎書記長の模擬記者会見で記者に扮した受講者が手を挙げて質問（左端）。この写真の撮影者：「写真の撮り方」専門コースの受講者・木下健太郎さん（浜松ホトニクス労組・JAM静岡）右：会見中は厳しい顔だけではなく岩崎書記長の一瞬の笑顔をカメラに捉えた撮影者：写真専門コース・菅谷貴之さん（ミツミ千歳・JAM北海道）

JAMは単組や地方JAMの広報担当者などを対象とした「第26回広報セミナー」を11月13日～15日、東京・港区「友愛会館・JAM本部」で開いた。講師には元新聞記者5人を招聘し、読まれて読みやすい広報紙は「逆三角形の原稿スタイル」「キーワードを前文に書く」等々、基本を学び、原稿用紙に鉛筆で記事を書くなど実践的な演習をした。

1日目の全体基礎講座では、「文章の書き方」を元朝日新聞記者・高木和男講師が、機関紙にわかりやすい原稿を書くためのポイントとして「見出しになる、もっとも伝えたいキーワードを前文（リード文）に5W1Hを用いて書く、主語と述語を近づけて書くこと」などを説明した。

「写真の撮り方」では、元朝日新聞写真記者・朝日教之講師から、良い写真の条件として「撮影者の伝えたいことが明確であること、心を揺さぶられるシーンが写っていること」などを学んだ。参加者は30人。

2日目の岩崎和人JAM書記長の模擬記者会見で受講者は記者に扮した。テーマは「JAM組織

内参議院議員郡山りょう誕生の意義」「2026 春闘JAMの要求について」。

質疑応答では記者さながらに鋭い質問を投げかけたほか、会見中に岩崎書記長が見せた一瞬の笑顔写真を写真専門コースの受講者がカメラにとらえた（写真右上）。

3日目の講評で、各々専門コースの成果が報告され、3日間のセミナーは終了した。

今回学んだことを活かし、単組や地方JAMの広報担当としての活躍を期待する。



月曜と木曜の2時間限定で特別色にライトアップされる東京タワー。露出やシャッタースピードの調整など夜景の撮り方を講師から学びながら撮影。写真コース：各和将亭さん（東京計器労組・JAM北関東）